

GOVERNORS LETTER

*Ikira
Kaizumi*

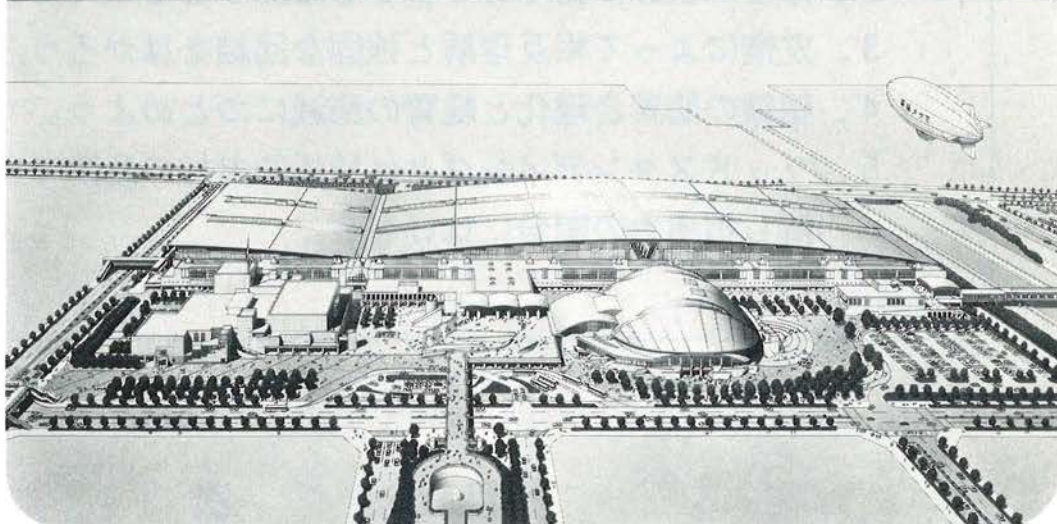
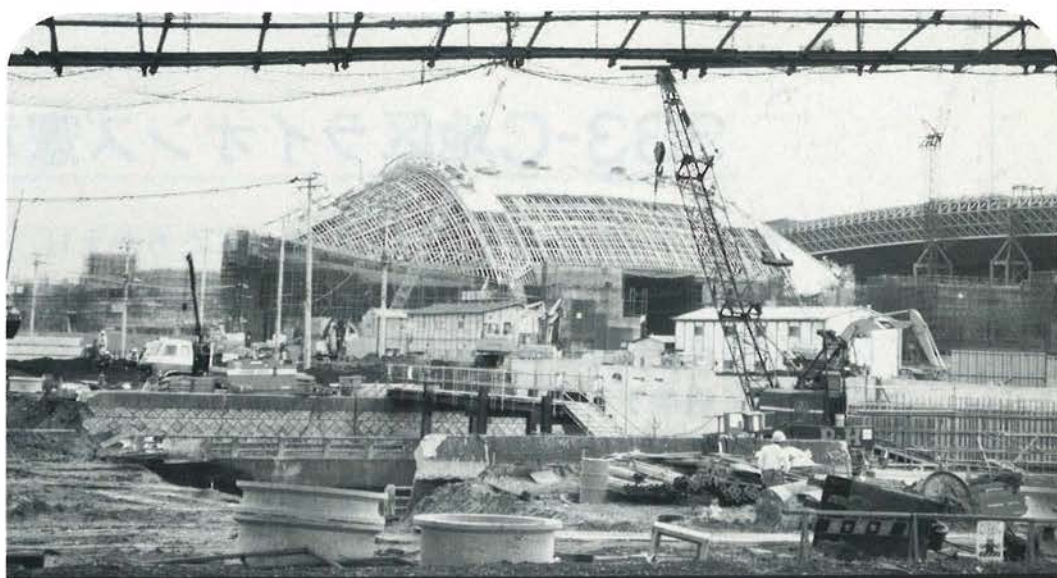


写真 (上) 建設中 (下) 完成予定図



地区ニュース



We Serve

1988~1989 No.4

333-C地区ライオンズ憲章

われわれは、ライオンズクラブ草創の原点にたちかえり、その崇高な精神を信奉し、会員である誇りと自覚をもって、ライオニズム永遠の発展に寄与するため、会員の総意を結集し、ここに地区ライオンズ憲章を制定して、その理想実現に邁進するものである。

1. 単位クラブの尊厳と自主性を尊重しよう。
2. 奉仕の根源は愛であることを確認し心をこめて精進しよう。
3. 友情によって相互理解と強固な団結をはかろう。
4. 組織の簡素合理化と経費の節減につとめよう。
5. グッドスタンディングとは積極的参加の意欲であることを理解し指導力の開発にはげもう。

目 次

討論会「国際協調を考える」	3
LEO. LS NEWS	12
YE NEWS	15
ACT NEWS	20
年次大会ごあんない	24
CAB NEWS	25

(表紙写真／建設の進む幕張メッセ)



We Serve

討論会

国際協調を考える

1989・1・29

千葉パールホテル



「国際協調」をテーマに、出席者は2時間にわたり、活発な意見を出し合いました。

司会 L.小石 税 (地区PR情報委員長)

〈出席者〉

L.小泉 昭 (333-C地区ガバナー、船橋LC)

L.山内克己 (地区国際協調YE委員長)

L.望月武峰 (地区国際協調YE副委員長)

L.松本良夫 (地区国際協調YE特別委員)

L.川合敏男 (地区国際協調YE委員)

L.物部重夫 (地区国際協調YE委員)

L.椎名英夫 (地区国際協調YE委員)

L.青木 孝 (地区国際協調YE委員)

L.河野悟郎 (地区国際協調YE委員)

(文中の敬称略)

PR情報委員会が主催している誌上討論会は、これまでに、アイバンクの問題、レオクラブをテーマに、話し合っていました。今回のテーマは「国際理解」です。現在、国際化時代といわれているだけに、国際交流を重視して、子どもの海外派遣、あるいは、受け入れの奉仕活動をつづけています。この点について今後、改善すべき問題点を明らかにし、LC全体の理解を深めていただくために、討論のテーマに選びました。

この討論会をお読みになって、いろんなご意見をお寄せいただきたいと期待をしております。



We Serve

忌憚ないご意見を期待して

司会(L.小石)大変お忙しいところ、出席して頂きまして



ありがとうございます。今回もPR情報委員会の座談会を開かせていただきます。本日のテーマは、「国際協調」でございますが、この点についての忌憚ないご意見をお聞かせ頂きたいと存じます。つまり、訪問先、受け入れのこと、YEの交換留学生として帰ってきてから、子どもたちをどうするか、ご意見をいただきたいと思

います。つまり、訪問先、受け入れのこと、YEの交換留学生として帰ってきてから、子どもたちをどうするか、ご意見をいただきたいと思

YEについて存分にご意見を

L.山内 私が議事の進行をさせていただきますが、先ず



初めに、今後のYEについて、ご意見ご発言をいただきたいと思いますが、今までの実績をふまえ、いろんな問題点もあろうかと存じますので、忌憚のないところでご意見をどうぞ。

一歩一歩改善をめざして

L.小泉 ご苦労様です。特に今日は、午前中に今冬期、



YE受入れ家庭との反省会、午後からは、夏期派遣生のオリエンテーションと、二つのプログラムを消化され、一日に、これで三回目の会合ということになり、ご努力に敬意を表します。改

めて申し上げる迄もなく、本年度は、国際化時代に対応出来得る、ライオンズの改革、という大きなテーマに基づいて出発し、大いに議論を興そう、という姿勢を一貫してご協力を求めているところであります。この様な趣旨をとりあげて頂いて、地区ニュースも、毎号、地区運営上、関心の多い事柄を、討論会形式で掲載し、ライオンズクラブ活動の活性化につなげようと努力されているわけでありませう。一回目は、アイバンクの問題、二回目が、レオ関係のこと、更に、1月20日には、地区内全クラブ会長さんと一堂に会して、対話集会をもって、意見交換する企画も実現され、一応、所期の成果があったと思



れて来ていますが、今回は特に、その道のベテラン委員の方々にお集まり願って、専門的な、しかも底の深い部分を発表されて、今後の資料として、充分活用されることを希んでおります。何れにせよ、ライオンズの役員任期は、1年限定という原則的な設定もあって、それぞれの任期内に、あれも、これも、の改善と言っても、場合に依っては、意欲に到達できないことも、又止むを得ないことで、その積上げこそが重要なことであろうと考えます。その中で、国際協調、YE関係者は、必要上、数年度に跨ってご活動いただき、尚且、実戦的にお骨折りを願っているわけでありませうから、今日のお話の内容が期待される所です。宜しくお願ひします。

派遣先についての問題点

L.山内 むしろ、小石Lのほうで問題提起していただいて、すすめた方がいいと思うのですが……

L.小石 それではいくつかの問題点のうち派遣先のことですが、出発するまでわからないとか、ということでご苦労されているとか、お話をききましたので、この辺についてまずお話をいただきたいのです。

出発まで行先がわからない時も

L.山内 この点、困った問題なんですね。YEをやった方がほとんどご苦労されていることですが、とにかく向こうから書類がこなかったり、ですから、出発までわからないことになる。しかし、日本のほうでホームステイさせてくださる家庭のアプリケーションも、これはなかなかでてこないのです。向こうの方々にも、日本に着くまでわからないこともあることでしょう。この点、日本の場合、てきぱきとやっているほうだとおもうのですが……いつも問題となる派遣先の問題点であって、ア



We Serve

アメリカには多くの方がいきますから、画一的に出来ない面もあるだろうし…

L.小石 各クラブが姉妹都市を結んでいて、その点との関わりもありますね。

L.山内 あるいは市町村で姉妹都市を結んでいるところもあるし。

L.小石 そういう姉妹都市を結んでいるのをひろっているだけでも、市町村の姉妹都市もあるし、ライオンズのものもあるし、安定した行先というものを確保できないのかと考えるのですが。

姉妹クラブと派遣の事情

L.山内 その点、国際本部の理事会では、Y Eを単一クラブ地区は単独交換または派遣をするように、奨励すると決託されているのです。日本の7つの複合地区が一つとなって派遣をやっていますが、本来、われわれの望んでいるのは、333、ですか、C地区と限らず、A、C、で派遣、受け入れができればいちばん望ましい。この前姉妹クラブを結んでいるところ、わりあい少ないのです。まして、派遣までやっているところは館山だけじゃないですか。単体でやっているのは館山だけです。

館山ライオンズの派遣体験

L.川合 私は館山市に住んでおりますが、館山市とアメリカのワシントン州ベリンハム市と姉妹提携を結んでおります。また館山市のライオンズクラブとベリンハム市のライオンズクラブ同志でも姉妹提携を結んでおりまして、今年は派遣、来年は受け入れという様に交換事業をやっております。もう100名以上の学生を行き来させていると思います。ところが委員長のおっしゃった様な単一クラブ交換の方向にも幾つかの問題点もあると思います。その一つに幹事会計必携のなかにY Eには二つの種類がある。その一つは複合地区がおこなうもの、もう一つは単独クラブでおこなうものと同格に書いてあるんですが、組織的にも資金的にも何の援助もない、それどころか統計の中にも入れて頂けない。今年には山内委員長の方針で良い方向に向っている事に感謝いたして居りますが！又、単独のY E生を10名派遣してもアワードの対象にならないC A BのY E生を2～3名受け入れたりしますとアワードの対象になるんですよ……

単独でも立派な経験も

L.小泉 公式訪問で館山をお伺いした時、確か、川合Lから、そのことを言われましたネ。単独クラブでやっているのが取りあげられず、評価されていないのは、まますっぴい扱いではないか、と云うようなお話しだったと記憶しています。ガバナーとしても、云われて初めて、あ、そういう事か、と初めてわかったような状況で、同行したY E通の木下キャビネット幹事が、事情を説明してくれました。単独でおやりになっていること自体、大変立派なことであり、地区サイドで取り上げるとか、取り上げないとか、と云う事は、その状況が良く把まれていない、と云うことではないか、と云ったお話しになったと思いますが、ただ、マンスリーで報告してあるから通じていない筈はない、と云うことより、地区には、専門委員会があるのだから、何らかの連携を密にすることが必要ではないか、と思いました。

活動の報告をY E委員にも

L.川合 Y E活動についてはマンスリーを通して報告し



ているわけなんです、勿論ガバナーの所にもいくと思いますが、ただY E委員長のところにはいかないのが残念ですが！

実情に見合ったやり方も…

L.山内 その件につきまして、できれば333でやって、今度のキャビネットの委員会報告であります、その時に館山の実績を報告するつもりであります。この点、川合Lにもお願いしてあります。もう一つは、いろんな問題





We Serve

もありますので、今後、YE委員会で、花見をかね、館山地区にいけないかときましまして、その時に、向こうの館山クラブと合同でやりたい。そこでいろいろな問題も話し合っただけ吸収するとか合併するとか、ということだけでなく、立派に育っている館山のYE活動を、333地区の一つの中に入れていただきながらやっていただきたいと希望するのですが……キャビネット委員長資料に、この点をわたしはのせるつもりであります。川合Lにお願いして、去年から今年にかけて、名前などを送ってほしいとお願いしてあります。いずれ、単一クラブの中でどんどんすすんでいくと、5年かかるか10年かかるか知らんが、333で、と。複合地区の委員会とその気持ちは重々にあることで……われわれ派遣先の相手がわからんとか、少なくとも333地区でみんな姉妹クラブとか、必ずそこにいくわけです。ある地区は治安がいいとか、安心して出せるわけです。これから今後の希望でもあるし、是非やらなくてはならないテーマだと思うのです。もう一つ考えなくてはいけないのは、いま多くもっているのは、334と335です。窓口というのは、これは70%くらいもっているわけです。ですから、すべてのことについてご意見を伺わないということに。へんな話ですけど、こちらに着いた時に、近くなんだから、その日に連れて行きたいと申し出て、成田にその晩は泊めて、そこで次の日にお渡しすると。しかしいろいろな事情もあるので。例えば館山まで連れていくより、一泊させたほうが疲れないとか、次の日に迎えにいったほうがいいのか、本人もよろしいとか。今後はC地区でその日にとりたいたらとれるとか。それまで、窓口で話をしなくてはならないし、これも一つ頭に入れておいてほしいと思うのです。

姉妹都市であれば有利

L.川合 毎年同じ地区と交換をやっておりまして、比較的早くお世話になる家庭がわかるし、家族同志の写真の交換や手紙の交換ができるんです。お互いに安心していただけるんですが、委員長の言うような方向に行きますと現在行っている様なベリンハムのライオンズの担当者に、又YE委員長に直接電話したり相談すると言う事が自由に出来なくなる。CAB、YEと一緒にになると地区をおすことになるから、遠回りになっちゃうのかな……。

相談しあって受け入れ体制も

L.山内 それはできるのです。ただ、地区をすべて通さなくとも結構なんです。ただしYE活動として、館山としてかりに、10人くると、その時10人お世話できないから、あんたたちのほうでやってくれということもできるし、かりにこちらのほうから、館山のやっているところに行きたいなら行かしてやるとか。

L.小石 望月L、習志野とか船橋のことでどうぞ。

L.望月 私も自分のクラブをやっている中で、特に国際



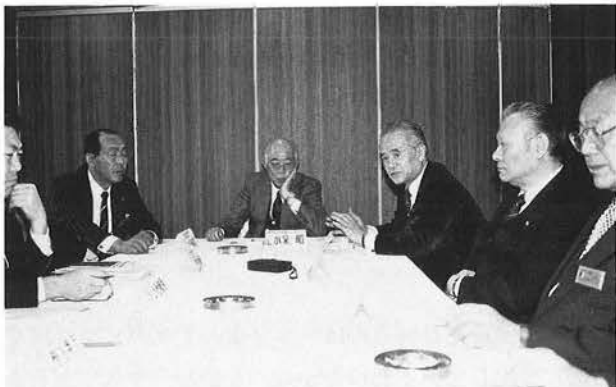
協調ということが理解されているものの、単一クラブとなるとなかなか理解されないということです。クラブ訪問をして印象に残ることは、YEの協力はあるのにクラブ全体の理解が少ないということです。いかに地区YE委員ができるだけ各クラブを訪問しながらPRすることがだいじじゃないかと私は思うのです。キャビネットのYE委員をやって2年になりますけど、私のリジョンは、年に三回のリジョン割り委員会をやるわけです。その時に、各クラブの会長、幹事、YE委員長、事務局と、各クラブから四名ずつ集めて、YE委員会をやるわけです。最初は9月か10月にやるのですが、本年度のYEは何をやるかということ、その中にガバナー方針も入れながら、まず、YEとはどういうことか、毎年毎年、同じ様なことを繰り返しながら、やるわけです。二回目はYEの実際の受け入れ家庭、派遣家庭の意見をききながら、それを参考にしてよりよいYEということでやります。第三回目は、最後のまとめと同時に、エレクトの三役を集めながら、引き継ぎをよろしくお願ひしますと、これを二年間もやっているわけです。なぜこんなことをやるかという、あまり





We Serve

にも、YEの国際協調に対する理解がうすいからです。ですから理解してもらわんと、なかなか、単一クラブが向こうのYE派遣、受け入れはできるものではない。船橋東がイルモントと姉妹提携を結んでいながら、だいたい3名くらい派遣し、受け入れているのですが、ここ4、5年きまっています。すばらしいクラブだなおもいながら、自分のクラブでも台湾と提携、ハワイとの提携を結んでいながら、資料をもって説明しても、台湾、ハワイで受け入れができないこともある。家庭的な問題だと思うが、この辺、ただ姉妹提携を結んでいながら、なかなか、YEの派遣あるいは受け入れができないのは残念だと思います。これもクラブ全体が盛り上がってくるとやはり、館山さん、船橋さんのようにスムーズにできると思うのです。今年度はYE委員長の最初の方針としては、姉妹提携を結んだところと、何年かかっても、単独でやりたいということです。そのことに対して賛成だし要するにC地区、333については窓口が少ないということです。だから、よくいう、飛行機に乗って飛び立つまで相手先がわからんというのは、受け入れの国にもよって違うんだろうが、だいたいアメリカ関係では、ライオンズができて70何年もたっているから、子供さんのいない家庭が多いと同時に、受け入れが少ないと。じゃあなんで受け入れをやるかという、地方新聞に広告を出しながら、受け入れ家庭を募るといのが現状です。同時に、アメリカは日本から行きやすいということでホームステイ、ツアーで、商売としてやっているツアーがあるのです。そうすると、お金で世話されることになるからライオンズのYEでも、誤解している面があること。日本レベルのYE委員会も考う直さんと、ただ日本的に出せばいいんだということではなく、出す相手先の複合の委員たちとの懇談も必要になってきたと思います。早くい



えば、21世紀にかけて、することがYEが27年ですか、ちょうど反省する時期にもきているし、そのために日本レベルだけでなく、YE参加国の討論をやる機会があれば、YE委員長がいかれて当たってみるのもいいでしょう。行く先がわからんというのはそういう事情だと思います。

個人とクラブの関係が不十分

L.青木 姉妹都市をやっているところは、しょっちゅう連絡がとれていて、うまくいくと思うのですが、そうでないところでは、個人とクラブの関係があいまいなんです。両親の承諾書とクラブの承諾書をすぐに出すようにと指導しているのですがその書類について、両親のほうはすぐくるのに、クラブのほうからなかなかこない。1月17日までに出してほしいと要望しているのだが、向こうのクラブからこない。というのはクラブの年度によって、次期の担当がそれを決めることになっていて、中に、現在の執行部では決められないということもあるようです。従って、承諾書がなくて、相手先が決まらないということになるのです。現在、2名、そういう状況で決まっていな人がいるのです。行く先が決まらなくて、委員のほうでも苦勞しているのが実情です。



お金でやっているところも…

L.山内 連絡が不十分だと、相手先にいっても家族とのコミュニケーションもなし、食事も勝手に食べるということで、そのうちに皮膚病にかかるというようなこともある。こんなことではいく人たちには気の毒で、最初に話したように、お金でやっているところもあるようで、われわれといたしましては、安心して出せるようにするには、相手のことをよく知っていないと、こういう問題が出てくると思うのです。学校では学校としてどんどん送り込む、向こうは飽和状態になっていると思うし、金を出して集めるということになると、YE活動、ライオンズはこんなところかという批判をうけかねない。もちろん全部がそうということでもないが……。

簡単などころには問題あり



We Serve

L.望月 簡単に行きやすい場所というのは、問題がとくにあるようですね。オーストラリア、ニュージーランドは簡単にいきにくいところです。ツアーとしていくと先方の、受け入れ先もいいということも。私たちが経験的に、この国なら大丈夫ということもあります。実際に派遣された子どもたちによって、それができるかということになります……。

L.小石 いろいろなご意見をうかがいました。クラブの活性化のためにも万全を期せるように……。

各クラブから、学生さんの選び方、問題点がありましたら……

成田ではメンバー以外の派遣

L.物部 私は委員になって半年で勉強中です。成田ライオンズクラブとしては出来るだけ、メンバー以外の子弟の派遣を心がけております。どちらかといいますと、メンバーの子弟は恵まれており、個人的にも行けます。そうではなく、経済的に行きたくとも行けない学生、その様な方にライオンズがお手伝いして今年も4名を派遣致します。昨年も2名のノンライオンズでした。やはり、受け入れの方が苦労いたします。今回は前回派遣しました家庭が心良く受け入れてくれましたが、受け入れも幅広く募集したらと思うのです。今後共活動を続けて行きたいと思っております。現在は受け入れも派遣も費用については先方負担ですので、将来的にはライオンズクラブが一部負担というところまで持って行きたいと思っております。

L.小石 ありがとうございます。河野L、いかがでしょう。

委員になって半年、勉強中です

L.河野 何から申し上げたらよいか、さっきから考えていたんですけど、委員になってまだ半年なものですから、もっか勉強中でして、特に申し上げることはございません。

L.小石 椎名L、どうぞ。

先方の事情を学んでいくこと

L.椎名 派遣する時の、いっていただく時の欠けているものは何だろうか、と考えるのですが反省会の時にでることですが、帰ってきてから、先方について日本のことを説明できなかったということ。選ぶ時の問題点でもあると思うのですが、現



実的には、行きたいという方を派遣しています。帰ってきて、英語の勉強をもう少しやっておけばよかったと。それから、テレビで大統領選挙を見て、どちらに人気があるとか、聞かれても返答ができないとか。これは相手国のことも勉強しておくこともだいじなことです。こういう点、YE生に欠けているものを、なんとかしていかないと、そういう点を何とかしたいと考えています。

L.小石 いまの日本の説明ということについては、こちらにくる人は、向こうのスライドとか何か資料をもって来る人が多いが、日本の場合、そういう配慮が足りない。これは、クラブがそういうことをやらないといけなこともなんだろうが、他人にやれといってもできないことだろうし。派遣を引きうけたクラブが配慮したほうがいいと思うのです。うちのクラブでも、この点を痛感しています。

一人でも多くのことを経験へ

L.川合 やはり一人でも多くの学生を派遣することがライオンズの趣旨だろうと思うのです。帰ってくると、本当に成長して、一生ライオンズクラブに感謝しつづけると思えますし、又本人にとっても青春の中の貴重な一ページになると思うんですが。

L.小石 ところが、いまの若い人の中で、そう思ってくれない人がいまして……子どもたちの考えは全く違うのです。YE生を選ぶ場合、地域に根ざした人を選ぶとか将来、ライオンズに入って働いてくれるとか、そういう人を最優先したらいいと感じるのです。うちのセガレがOB会長をやっているようですが、年一回のキャンプも協力してくれないと、ハラを立てていたこともありました……。

L.椎名 派遣先というのはクラブなんですね。クラブが推薦して出していくわけだから、しかし、すべてをわか



We Serve

っているわけでない。この子はどういう子か、向こうに
いって生活できるものを基準にするしかない。地方のもの
を紹介することで、民族性もあるが、ファミリーの写
真をみせるとか、日本はそういうことがない。やはりク
ラブが最終的に配慮したほうがいい。

L.小石 そうですね、研修会をやるとか。

受け入れより派遣が難しい

L.望月 誤解しているクラブもあることも。要するに、
何人受けようとも、前提はクラブだから、受けるにして
も派遣するにしても。受ける時は、他のクラブにも何と
か頼むとか、ところが派遣する場合、すーとってしま
うから、出しておいて、批判することもある。クラブが
受けてクラブが派遣するという根本的なところを忘れて
いてはこまる。ノンクラブだって、クラブがその気にな
ればできると思うのです。われわれがバックアップすれ
ばいいのですから。ライオンズが27年間、YE活動をみ
ていると、一回受け入れしました。派遣しましたで、そ
れで消えているようです。せっかく、やったことなんだ
から、国際的にふれあいがあるのだから、なぜつづけて
いかないか、これからのYEのだいじなことだと思うの
です。335をあてにすることなく、年間、45名くらい派
遣しているのだから、この人たちをいかにミーティング
しながら、今後のことを考えないとYE活動はむずかし
いと思うのです。

L.小泉 現在は、派遣生を試験しているわけですね。た
くさんの中からしぼっているのですか。

応募者全員を派遣して

L.望月 今年度に関しては、C地区50名、あとで年齢制
限、キャンセルもあって、募集受けた人がほとんどいけ
ることになりましたが……受ける際には、逆に希望者全
員を迎えるのが難しいことに……だから去年の場合、2
人はみだして、2人でうけましたが……。

L.物部 ライオンズは、7月から新しい人になる。派遣
のほうは前期の人、受け入れは新しい会員になって、予
算がないとか、去年は4人だしたのに、受ける方は2人
にしてほしいとか。継続的に申し送りをやっていないと
ね。これは各クラブの委員長がやらないと……。

L.小泉 地区サイドのYE委員は、何年か任務を続けて

やる。それをクラブサイドでもこうすべきじゃないかと
か、意見を出していただくといいと思います。そういう
ことが本日の討論会にふさわしい問題提起だと思うの
です。

チャリティーゴルフで資金を

L.山内 私ね、金がないからやらないというのは、よく
ないことだ、予算がなかったらということではなく、送り
出してやりたいと思うのです。例えば、いろんなチャリ
ティーなどやりますね。YEのためにやるとか、はっきり
いって、ノンライオンだけならこれはできるが、ライ
オンズだけに金を出していると問題がでるとか。私ども
チャリティーゴルフはやるんですが、YEのほうに分け
て、ノンライオンを補助して出せるようにと、そこまで
いきたいのです。今後のLCIF、YE活動、を考えて
いく場合、どこでもチャリティーやっていると申し、
その金をYEにもってくるようにするとか、われわれが
活動しなくてはいけないと思うのです。

L.青木 私のほうも委員長と同じで、チャリティーゴル
フの資金を、まずYEに使うんだと積み立てしてあって、
予算的な措置をしています。ずーっと毎回。だからいつ
でも派遣でき、いつでも受け入れができるのです。これ
も僕がYEになったからできることなんです……。

L.小石 YEに権限をもたしておけば、会長さんが変わ
っても、その予算はYEで使えることにすれば……。

やはりお金はかかることに

L.川合 単独のYEもお金がかかるんです。





We Serve

ナショナルの会員としても

Ｌ.山内 私の言いたいことは、根本的に考え直す時期に来ていると思うのです。というのは、今は20万、30万の金でアクティビティーをやったところで、どうにもならない現状だということです。根本的に日本ライオンズクラブの改革をしなくてはいけない点だと思うのです。われわれは日本人であるから、日本のことも地域のことも考えないといけない。しかし、インターナショナルの会員という立場から奉仕しないといけない。そういう方向に日本のライオンズクラブも向かっていかないと、だんだん金さえ出せばということになってしまう。

ノン家庭は効果大きい

Ｌ.青木 アクティビティーで考えた場合、ノンライオンの派遣、ノンライオンの家庭にうけてもらおうと、非常に効果があるのです。具体的に認識してもらうためにいいのです。今年、ノンライオンから、私ども受けてもらったのですが、ライオンとはこんないいことをやっていたのですかと喜ばれ評価されましたね。YE生を受け入れて、家庭が非常によくなって、おじいさん、おばあさんも国際交流に努めてくれたと喜ばれましたね。

Ｌ.小泉 新年度は予算の中で、会費の中での奉仕活動だというように計画ができてしまうということだけでなく、臨時の奉仕基金を出し合わないと。当初の計画だけにとらわれずに、派生してくることにしても、対応できるようにしたいものですね。

流動的に事業費を考えて

Ｌ.望月 運営費は固定的で事業費は固定しないで、これが増えることはクラブの活性化につながっていくと思うのです。しかも、寄付団体でないということもはっきりさせておきたい。ライオンズもここまできたら目覚めて流動的な事業費を考えたいと思うのです。

Ｌ.小石 ありがとうございます。さて、日本は受け入れ家庭がサービスすぎるのではないか、ということもあるようで。ま、お姫さまをあずかったように、あそこへ連れていったり、ここに連れていったり、物見遊山したり、ディスコにつれていったり、この点、最底のマニュアルをつくっていいのではないかとも思うのですが…。



過剰サービスをやめて…

Ｌ.望月 5人の受け入れをやってきましたが、初め3クラブで受けて、15日15日で受けて、YE生みると、問題は、習志野に行くのはイヤだということ。よく聞くと過剰サービスなんです。自由時間がない。最後にこのままアメリカに帰りたということになって……自分の家に子供が一人増えたとかがえ、普通に扱ってもらいたいと強調したのです。過剰サービスをやめてくれと。その子に限って生活を考えることはない。最後のレポートをみると、何もやってくれなかったのがよかったと書かれているのです。お金をかけないYE生の受け入れをPRしているのです。YE生がサマーキャンプで集まったなかで、日本は朝から食事が多すぎるとか、それこそ過剰サービスなんですね。外国の人は朝食はほとんど一人で冷蔵庫のものを食べているので、日本では、さあ食え、さあ食えとくる。一月に帰ったオーストラリアの子をみると、いいところにつれていって、ステーキを出したら食わなかったと。受け入れ側はこんなに大きなステーキを出して喜ぶだろうと思っているわけです。家に来て話もしない、泣き出してしまふ、食べない……受け入れのあり方も考えないと。

Ｌ.山内 たしかに、日本側の過剰サービスは多い。日本にいくと、こうされると、期待している子もいるようだが、日本はどうしてもお客さま扱いにしてしまふ。できる限り在りのままやってもらうことですね。

Ｌ.小石 最底このくらいにしてと。

Ｌ.山内 わかっていながら、それをやってしまう傾向がありますね。

Ｌ.小石 OBについてはいかがでしょうか。年に1回か2回、OB会をやれないものか。やがて会員になってく



We Serve

れるとか。

L.椎名 行く時は学生だが、その後、卒業して勤めるとか、お嫁にいくとか。確実にしばっておきたいがそうもいかない。みなOB会をやる子だが……OB会にこないからと判断したくないのです。長い目でみて判断しないと。

名簿をもとに組織化を

L.望月 3年分だけは整理して、これをつづけていくなから、今後、名簿をもとに組織化をどうするかと考えないと。原則3年とあるのだが……。派遣の経験を生かして受け入れを対応すればいいと思うのだが……。

L.川合 2～3年はOBとして活躍をして頂く、次の派遣生に対しアドバイスしたり、体験談を話したり、受け入れ学生の世話をやいたり、しかし派遣してあげたのだからずーっと縛ると言う事ではなく、ある程度たったら自由にさせていいと思うのです。帰ってきてから英語が好きになり英語の先生になったり、これを機会に自分の人生の方向を変える人もいます。

L.山内 そのつど経験者をお呼びして、それと、事故がいまのところないからいいが、何か事故があった場合、単一クラブで措置しきれない場合もあるでしょう。特別援護資金三千万円を使えるように、と、もっていききたいのですが……。

L.望月 YEの補充に、ガバナーサイド等で、人選をきめられると、アトが大変なんです。現職のYE委員と一緒に推薦しないと、ただ名前だけというわけにはいかない。本人も大変だし、あとに残った人も大変ですからね。

L.山内 YEというのは覚えるまでに1年もかかりますからね。いろんな入り組んだことがあるので……いまの話のようにボンともってこれられても……2年、3年とやって初めてYEの何であるかがわかることになります。私の場合、ガバナーから委員長に指名されたが……それ以前2年間やっていたから。それに年度代わりが7月だが、年度代わりが最も忙しいのです。そこへ、初めての人をといても、困ってしまうのです。ま、責任をもって後任者を人選していただかないと。

L.望月 7月から新年度に入るわけで……

L.小泉 先ほどの事故の際の、緊急資金のことですが、

キャビネット会議で委員長提言として出してください。ただ災害対策費は使用目的が決められているので……。

YEに活用していいものかということはありません。YEの人事については、山内委員長のおっしゃるように、定着していると思うのですが……。現体制をつづけるように、考えています。次期もそうしてくれるでしょう。

L.小石 事故の問題というのは、クラブなのか、キャビネットなのか、責任の所在を明確にしておかないと……。

L.山内 いずれにしても、その資金を活用出来る前提ははっきりしとかなないと。あてにはならないこともあるのだし。

L.小泉 もしもの際に、この資金をつかうのか、別途に考えるのか。過去に検討したこともありましたが、重要なことですから、研究して行く必要を感じています。

L.山内 キャビネット会議では、善処します、検討しますという答えが多いのです。二度と実施したことがない。

L.小泉 必ずしもそうではないのです。やはり十分に検討して実施することになるので……。

L.山内 人身災害の際には使えるのだから流用できると思うのですが……。

L.小泉 流用していいかどうか。十分に検討しなくてはと思うし、これを設けた時の目的趣旨に沿うかどうかということになると思うので、流用するという結論が出れば流用してもいいと思うのだが、何れにしても、余り短絡的になることは避けなければ……。

L.椎名 われわれも一生懸命やっていることだし、次期ガバナーでも検討していただかないと……。

L.小泉 問題意識をもって、提言していただき、全体で討議を深めあっていききたいのです。

L.望月 YEについて、各委員の方やメンバーの方によ





We Serve

く理解してもらいたいし、むしろ、こちらから、私は、出向いてお話を申し上げてあるのです。

L.小石 河野L、何か。

L.河野 わたし、まだ新米でよくわからん面が多々あります。第7RのYE活動が低調なので、なんとかしなくてはと考えているのですが、みなさんの発言を参考にしていきたいと考えます。

L.小石 しめくりとして、まず山内Lから。

L.山内 われわれは、どうあれ、やらないといけない。ここでやめるといふわけにはいかないのだから、みなさんのご努力とご協力により、よりいい方向をめざしてYE活動ができるようにしたいと考えます。

L.小石 では、小泉ガバナーどうぞ。

L.小泉 地区の中にいろいろな委員会があります。それぞれの委員会ごとに研修も実践もやっているわけで、全体の運営について、今年のねらいというのは、各クラブでいろいろ専門の知識を出して、大いに議論もしていた

だいて、結論を出していく、そしてこれを実践に結びつけることでクラブも活性化していくのです。こうして、キャビネット会議も分科会も中味のあるものになっていくと思うので、よろしくお願ひしたいと思うのです。

L.小石 本日は、貴重なお話をいただいて本当にありがとうございました。



We Serve

LEO・LS NEWS

4R. LCIF. LEO. LS. YE 合同研修会 報告

4R. PR情報委員 L. 小林利弘

昭和63年11月12日(日)、4R、LCIF、LEO、LS、YEの合同研修会が佐原市中央公民館に於いて開催されました。この研修会は4Rでは初めての試みで、RC長島 彪Lがリジョン内での各メンバーにLCIF・LEO・LS・YEについてより関心を持ち、理解を深めて協力を得ようとする主旨のもとで開催されました。

当日の講師は地区青少年対策LEO、LS、委員長、鈴木利一L、前地区YE委員長、関重雄L、前地区LEO、LS委員、常世田耕作Lにお願ひし、参加ライオンは約60名でした。





We Serve

千葉京葉 L S

会長 LS 武石美代子

千葉京葉ライオネスクラブの大きな事業の一つとして毎年チャリティーパーティーを行っております。

今年は2月5日(日)ホテルニューツカモトに於いて第8回「愛と奉仕で平和な世界」をスローガンに開催いたしました。沼田県知事、松井市長、小泉ガバナーをはじめ600人近いお客様のご協力 ご参加を頂き盛会に終わりました。

愛の浄財は今回も千葉県・千葉市の社会福祉基金、富津市の重度精薄者施設、豊岡光生園、千葉市精神薄弱者育成会、千葉県アイバンク協会へ援助金として贈呈いたしました。

酒井 広アナウンサーの司会で始まり第一部でアクティビティの贈呈、第二部では乾杯、ディナータイム、ラテン音楽演奏、ロス・プリモスのムードミュージック、酒井 広グループによるフォーメーションダンス、抽選と皆様に参加していただき賑やかに多くの方と交流をいたしました。最後に輪になって、かたき握手のうちまたお会いできますことを願ってお別れいたしました。

少ないメンバーで検討、交渉をかさね、それぞれの役割で準備し成果を上げることができましたのも、親クラブの千葉京葉ライオンズクラブはもとより、各ライオンズ・ライオネスクラブをはじめ、皆様の暖かなお力添のおかげです。ありがとうございました。

私たちのクラブも今年10周年、これからも愛の奉仕の輪が大きく広がるお手伝いをしてまいりたいと思っております。

大勢の方々の愛の心とご理解を、心より感謝申し上げます。

言 宣 兼 斤 由

1989年(平成元年)2月6日(月曜日)

重度精薄者施設
に20万円を寄託

千葉京葉ライオネスクラブ
千葉京葉ライオネスクラブ
(武石美代子会長、会員数二十人)は五日、現金二十万円を読売新聞千葉支局を通じて、富津市豊岡の重度精薄者施設「豊岡光生園」に寄託した。同日、千葉市内で開かれた第八回チャリティーパーティーの収益金の一部。

パーティーには、沼田知事、松井千葉市長をはじめ約五百人が参加。女性による奉仕団体として結成された同クラブの設立十周年を祝うとともに「愛と奉仕で平和な世界」の運動への協力を呼びかけた。パーティーの収益金はこのほか、県、千葉市の社会福祉基金、同市精神薄弱者育成会、県アイバンク協会にそれぞれ寄付された。



現金を寄託する武石会長(右)





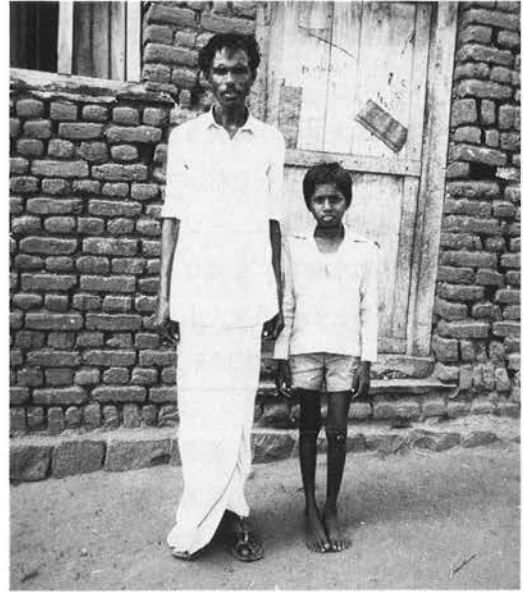
We Serve

フォスター・ペアレントになってください

千葉京葉L.S幹事 波木 睦

千葉京葉ライオネスCがフォスター・ペアレントになって2年たちました。フォスター・ペアレントとは国際里親とでもうしましょうか、発展途上国の子どもたちを遠くの地から、陰ながら育てましょうという国際的な援助運動の一つです。月々五千円の援助を通し、途上国の子どもの経済的、精神的な里親となり、しいては子どもの住む地域の援助をも知らぬまにしているのです。21世紀を担う子どもたちは、日本の子どもたちばかりではありません。発展途上国の恵まれない子どもたちも見捨ててはいけません。ほんの少しの負担で私たちは手を差し延べることができるのです。

私共千葉京葉ライオネスCではクラブとして一人の子どもの里親になりました。初めに東南アジアの男の子を希望しました。そして日本フォスター・プラン協会からインドの8歳になる少年、ビーラリンゲ・ゴウダ君を紹介されました。喜んで里親になりました。クラブ会計の



都合上、一括送金することになりました。年度始めに6万円を送るのです。

半年ほどすぎてゴウダ君から手紙が届きました。まだ字が書けないらしく、村のボランティアがヒンズー語でまず口述筆記をし、さらに協会が英文に翻訳し、それを

PLAN INTERNATIONAL MADAKASIRA INDIA

To Foster Parent: 2111-04 1331/ASHI MADAKASIRA CLUB Prefix & No.: 71 2 0 17 27
 From Foster Child: 2111-04 1331/ASHI MADAKASIRA CLUB Prefix & No.: 05763

3.3.1988

ಶ್ರೀಮತಿ ಶೋಕಣಿ
 ನಾನು ನನ್ನ ಮನೆಯಲ್ಲಿ ಎಲ್ಲರೂ ಒಟ್ಟಾಗಿ
 ಇದ್ದೆವೆ ಎಲ್ಲರೂ ಒಟ್ಟಾಗಿ ಇದ್ದೆವೆ ಎಲ್ಲರೂ
 ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ
 ಬಿಡಿ ಬಿಡಿ ಇದ್ದೆವೆ
 ನಾನು ಈ ಕ್ಷೇತ್ರದಲ್ಲಿ ನನ್ನ ಉಳಿದ
 ಒಟ್ಟಾಗಿ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ಒಟ್ಟಾಗಿ ನನ್ನ
 ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ ಉಳಿದ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ
 ಗೆಲುವಿನವರು ಎಲ್ಲರೂ ಗೆಲುವಿನವರು ಬಿಡಿ ಬಿಡಿ ನನ್ನ
 ಒಟ್ಟಾಗಿ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ಒಟ್ಟಾಗಿ ನನ್ನ
 ನನ್ನ ಉಳಿದ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ
 ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ

ತಾಯಿ ಕನ್ನಡಿ ಪಡೆದವಳು. ಹಿಂದೂ ನನ್ನ ಮಕ್ಕಳನ್ನು
 ವರು. ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಎಲ್ಲರೂ ನನ್ನ ಮಕ್ಕಳನ್ನು ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ತಾಯಿ ಉಳಿದ ನನ್ನ ಮಕ್ಕಳನ್ನು ನನ್ನ
 ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ

ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ
 ಕನ್ನಡಿ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ ನನ್ನ

インドの少年 ビーラリンゲゴウダ君の礼状(原文)



We Serve

和文にしたものでした。感謝の言葉と彼の両親のこと、稼業が農業労働のこと、そしてまだ働く年齢には達していない4人の姉妹がいることなどが書かれていました。フォスター・チャイルドになったので、この援助によりもっと生活が良くなると信じていると結ばれた手紙のなかには長いと感じる手足の、やせた体型の、でも利発そうな少年の写真も入っていました。

私たちは、私共の援助が続く限り、このインドのピーラリング・ゴダ君の里親です。勿論彼が自立できた時は、又他の子どもの里親になるつもりでいます。今、世界中で40万人の里親がいますが、この内2万人は日本人だそうです。小学生や中学生もたくさん里親になっています。さあ、Lマンもフォスター・ペアレントになりましょう。



We Serve

YE NEWS

陸を奔る獅子・空を翔ぶ鷺のなかで

船橋ポート・ライオンズ・クラブ
国際協調・YE委員長L. 下川 肇

ここ数年前から、我々の動物園でも世界各国から国際協会の指導のもとに、日本に来てみたいと思っているライオンの子供を、ひと月程ずつ預かっては返している。出会いはいつも、りりしく、たて髪をたて、精一杯の翼をひろげて現れ、別れは感涙の措別となる可愛い子供達である。

そして、我々からも3、4匹の子供ライオンを各国でお世話頂いてきた。出発は未知への不安から緊張しての旅立ち、欲目からも知れないが、何がしかを掴んで帰ってくる。

これまでは夏期にアメリカ、カナダ、スウェーデン、等の国から来ている。今年は初めて冬期に、ニュージーランドから迎え入れた。はじめの頃はお祭り騒ぎの中に受け入れ、ベットよろしく連れ歩くことも多々あった。最近では“三蔵法師の手の中”のように極力その人格を認めて自由にし、欲しい情報は提供するものその主体性を重んじるようになって来ている。我々の動物園には園長をはじめ50人余りの飼育係のおじさんがいるのだが、そのなかの一人か二人が親がわりになって日常生活の面倒を見て居る。いまは消費文明・飽食の時代などと言われ、欲しい物はまず手にすることが出来る。短小軽薄が好まれ、長大重厚が敬遠されがちに易きに流れる日常生活。その中に異なる文化の眼をいれて見ようとするとき、

ふと戸惑いを感じるのは見栄や虚勢からなのだろうか。毎回この事業に関わるとき、特に受け入れをする時には自戒させられる。そんな所にもこの事業の意味が在るような気がしてならない。勿論、親代わりの飼育係の意向は最優先され、全員が尊重している。今のところ夏か冬に限られているのだが、気心の知れた動物園ができればもっとお互い自由に交流を図ることができるし、そのほうが自然なのだろう。また、こちらの地域の動物園がまとまってキャンプを行うことも出来るのだが、一過性のもので、単一の動物園が継続事業として考えることではなさそうである。

ともあれ、我々は開園して昨年、5周年を迎えたばかりである。この交換事業の独立した委員会ができて2年たらず。国際協会は1961年以来の歴史をもち、我が国内にも28年有余の実績を持つところが有ると聞けば、当時の社会背景から見てもその寛容さに敬意を表したい。当園も最初のころからみれば、その対応は円滑にはいるが、組織活動として十分と言うわけに行かないのが現状である。先進諸団体に於いても初期から胎動期には、我々以上の試行錯誤を重ねてこられたことではなかろうか。今はそれなりの指導もあり、実例もあるのだから容易なのかも知れない。

しかし、安易に流れてはなるまい。若輩は若輩なりのかかえる問題があることが当然で、必要かつ十分な討議をつくすべきである。

例えば、いちばん起きてはならないことながら、この繁雑な社会のなかで、誰しものが被りかねないと同時に起



We Serve

こしかねない事故の対策ですから、その時の責任の所在、それに対する保険等の問題にしても、模索中なのである。

ことが国際舞台であるだけに対処の仕方にもいろいろと難しさは在ろう。より良い明日に向けての国際理解の交流・交換なのだから、その意義は大切にしたい。異なる文化・文明が交ざり合い理解しようとするときに、そ

れが奉仕のなかであれ、善意のなかであれ、多少の不自由や予期せぬ対応を迫られることがあることを当然としなければなるまい。その不自由さや予期せぬ対応のなかにこそ異なる文化・文明の香りがあり、より良い国際理解の種が其処にこそ在るのだから。

Y E と 共 に

八千代LC 会長 L. 秋葉 琢磨

1980年 Lions に入会以来、ずっとYEの受け入れに関与して来た。YEは1961年、日本側の案で生まれ27年の歴史を数えている。International ACT としてLC IF と共に Lionsでは最大のものである。今迄オーストラリア、カナダ、アメリカ、のYEを受け入れ、今期初めてヨーロッパの中のフランス人 Mademoiselle Helene を市川東 Lions 田辺誠二氏家族と共に6週間受け入れた。を過ごした。その結果の彼女の Report と共に私達の若返りの一端を記してみよう。

先ずYE来日と共に特に英語の出来ない中学生、高校生を集める。そして英語に興味をもたせ、外国という異種文化に興味をもたせる。互いに話せなくとも同年代であれば特に早い時間に、本や手まねで、Communication は出来るものだ。すると毎日のようにYEと子供達は生活を共にするようになる。こちらは親にも感謝され、診療も出来る。夜は一緒になって遊び若返る。

Bon season とあり、多くの盆踊り、祭りを見聞した。その中の「江戸崎祇園まつり」について書いてみよう。祇園とつくからに京都八坂神社で八坂郷の古い鎮守社で高句麗の婦化人、八坂氏の氏神であり、祭神はすさのおの尊、である。人口13,000人の江戸崎町は名のごとく江戸時代に繁栄した。

毎年7月25日～27日まで町内最大の行事といえるこの祇園まつりが街中心部で盛大に開催される。華やかに飾った8台の山車に、八坂神社と鹿島神社の合祀みこしが一基、山車には笛、太鼓、鉦のおはやし連が乗り込み、みこしは露払いの獅子2匹と大太鼓の伴奏を従え、main street は歩行者天国となり、各種の露店も出て大にぎわいである。山車はすべて回転式、交差点で high tempo

今期の富津 Summer Camp で知ったが、Cabinet YE 係は本当に「地獄のYE係」で、いろいろの面で苦勞が絶えない。送り、歓迎を始めとして、滞在中の世話役、苦情処理、良く Smooth に滞在、体験が果されて、普通なのである。この苦勞を少し幸せに導くためには、思い切って自分が International Lions Member になり、YE生の国を訪れ、そこの人々と Communication を深めることにあるであろう。今や東西を問わず、経済と共に International 化は進展している。

YE生 Helene と共に今夏も若返り、大変忙しい毎日に変わるおはやしに合わせて人力で回す、その speed 感、躍動感、そして獅子もみこしも力いっぱい暴れ回り、良い意味で若者が energy を爆発させる、Helen はじめ我々同行者一同若返り、Exciting の一夜であった。多くの記念写真と共に、佐原ばやしをテープに納め、日本での体験みやげを南フランスに持ち帰った。帰国後多くのフランス人より日本や日本人についての質問が絶えなく、良い意味の使者と手紙に記されて来た。一人でも多くの Lions、若人が Humanity ある International 化を願い稿を終る。

63. 7. 26
江戸崎祇園まつり
Helene with
Keiko





We Serve

Dear miss Saussier

I received your pictures in Lions meeting the other day. Please don't worry about coming to Japan. We will welcome you warmly. Japan is nice place. It is summer now and hotter than your country.

I think that Japanese art and history is very wonderful. Please enjoy your days with a lot of Japanese friends.

We have been to Paris twice. I thought your country is wonderful too. Only literary students study French in our country. So I don't speak French. Please teach us.

I'm going to make you a lot of chances to see many kinds of students. And we're looking forward to seeing you. We will welcome to international airport with many Lions members and our family on July 22, 1988.

you must meet 2 mayers in Yachiyo city and Narita city. So I hope you please bring your mayer's massage. That's good

Sincerely yours

Takuma Aki'ku, M. 17.

君津 L C

日本(君津)での42日間YE生として

VICTORIA LYNNE SMITHEM

訳/鹿島 真二

ライオンズクラブのYE生として君津でのホームステイは、とても素晴らしいものでした。

ホストファミリーと一緒に暮らして私の国、ニュージーランドとは全く異なった、とても珍しい文化を体験することができました。この君津でのホームステイは、私に異なった文化や習慣という今までに見たことのない新たな視野を与えてくれたのです。

君津へやって来て最初の数日間というものは、習慣や文化の違いの多さに目を見張りました。

例えば、食べ物や建物やあいさつのしかたといったものでしたが、その後、日本の生活様式に慣れたせいか、

これらはもう何も異和感がなくなりました。

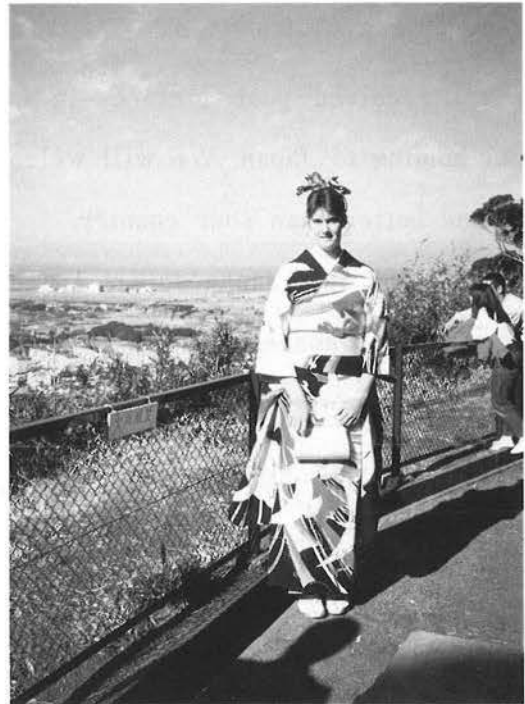
君津にホームステイしている間で、もっとも記憶に残っていることはお正月でした。お正月に私は、とても珍しい日本特有の文化にふれることが出来たのです。着物を着て神社でお祓いをしていただき、とても名誉に感じました。この素晴らしい習慣は、私の記憶の中に常に価値あるものとなることでしょう。

君津での一番良かった経験は、ホストファミリーと一緒に暮らせたことと、ライオンズクラブの皆さんと共にすごせたことです。皆さんにはとても親切にいただき、心あたたかくむかえいれていただきました。このホストファミリーと共にすごした日々は、日本の文化や習慣を知るうえで私自身とてもよい経験となりました。

だれでもが日本へやって来て、楽しく過ごせると思います。しかし、そこにはその国特有の家庭生活というのがふくまれているのだということを痛感しました。

We Serve

YE生として私は、全く異なった環境の中でこの日本の生活様式や沢山の光景を幅広く見ることができ、とても有意義な日々を送ると共に、この君津で多くの貴重な体験をさせて頂きとても楽しい毎日でした。またいつかこの地にもどってこられることを楽しみにしています。



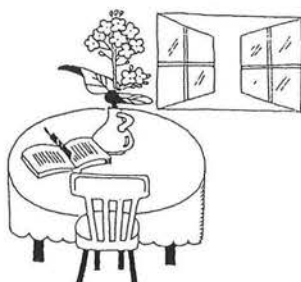
▲和服で盛装 人見神社へ初詣
(体に合うきものをさがすのに苦労しました)

(左上) 新日鉄工場見学

(左下) レオクラブ例会にゲストで出席

千葉 L C

1988年、7月に当クラブの納涼例会へ出席した、マーニー・オルソン嬢より、アイオワのヌーンLCの例会へ当クラブのバナーを持って行って紹介してるところの写真がとどきました。



八千代 LC

 Sunday August 28th
1988.

I have to accept that tomorrow
I have to leave Japan and come
back to France.

These six weeks have past so fast.
That really the first time I didn't
feel, even a little, home sick during
a travel or a home stay.

That mean perfectly that I had a very
good time here.

I enjoyed visiting Tokyo and the
neighbourhood, Kyoto, Nara, Nikko
and many other beautiful town.

I also enjoyed dancing bonodori
with my host father and Keiko and
playing Pachinko.

During this stay I have met so
wonderful people. My two host
families were so kind, they took
care so much about me.

I really don't know how to thanks

them, for all the things they have
done for me. I really appreciated,
I will never forget.

I will sure come again one day
in Japan, maybe as my
Japanese friends said, for
my honeymoon, but I think
sooner than that.

So I should say:

Itata omeni ka karimashō.

All my love

Marie He'lene



63.8.28 サヨナラパーティ 田辺誠二氏宅▶
(市川東 Lions)

(訳文)

8月28日(日)1988

私は明日、日本を離れフランスに帰る。この6週間は
非常に早く過ぎてしまった。旅やホームステイの間、ち
っともホームシックにならなかった。本当に日本にステ
イした事は最高であった。

私は近隣、東京、日光、京都、奈良そして沢山のきれ
いな町を訪ね楽しんだ。また、Host father や佳子と盆
おどりを共に楽しみ、念願のパチンコもさせてもらった。

このホームステイですばらしい人々に出会った。特に
私の2つのホストファミリーは非常に親切で私に沢山の
人間性あふれる「みやげ」を与えてくれた。私は心から
私のためにしてくれた全ての事について御礼の仕様がな

い程「有難とう」と云いたい。私はこの人間性を決して
忘れない。いつの日か必ず再び日本に来る、それは「ハ
ネムーン」、だろうと日本のお友達はいってくれる。そし
て私は直ちにこの留学の親切さ、人間性を思い出す。

そこで私は叫びたい「またお目にかかりましょう、

私の全ての愛を添えて

Marie He'lene

(訳 / 秋葉琢磨)



We Serve

ACT NEWS

千葉 L C

千葉中央 L C

善意と真心を 大きな「希望」につなぐために

この子に生きる喜びと生きていることの感動を与えたい…。この子たちが人間的な触れ合いの出来る場を作りたい…。

7年前、障害者を持つ親の切なる願いからスタートした施設建設の夢が、今ようやく実ろうとしています。

「エルピザの里」がそれです。ギリシャ語の「希望」という意味から取った精神薄弱者更生施設「エルピザの里」は、千葉市高田町で来年4月の開園をめざして、建設が急ピッチに進んでいます。その運営母体である社会福祉法人「清輝会」もこの7月に正式に認可の運びとなりました。

ここに至るまでには、千葉県、千葉市をはじめ、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青年会議所など各方面からの暖かいご指導、ご支援がありました。

こうした多くの方々のご支援に感謝し、さらに広く市民のみなさまに「エルピザの里」を知っていただくために催したのが、この「エルピザ市民文化講演会」です。

「エルピザの里」が、障害者とその親の希望の道しるべになるためには、さらに多くの市民のみなさまのご支援が必要です。この催しが、みなさま一人一人の善意の輪を広げる契機になれば幸いです。



11/28 千葉日報 報
精薄者施設建設で講演会
来春オープンへ

来年度のオープンを目指し、千葉市高田町に精神薄弱者更生施設「エルピザの里」建設計画を進めている社会福祉法人清輝会（桑田昭代表）主催の市民文化講演会が千葉市民会館大ホールで開かれた。

講演会は午後六時半から始まり、清輝会代表の桑田昭・桑田建築設計事務所長が「エルピザはギリシャ語で希望を意味する。豊かさを障害者と分かち合い、善意と真心の輪を広げていきたい」とあいさつ。このあと、経済評論家の今静行さんが「高齢化社会の家庭経済学」、シナリオ作家のジェームス三木さんが「ドラマと人間」のテーマで、それぞれ講演した。

精薄者更生施設エルピザの里は千葉市高田町一四九ノ二に鉄筋コンクリート平屋建て延べ床面積約千四百平方メートルの施設がつくられ、昭和六十四年四月オープンを予定。



【社会福祉法人清輝会の市民文化講演会】



We Serve

ACT NEWS

旭 L C

提携10周年記念合同例会

幹事 L. 加瀬 孝雄

旭LCと長野県茅野LCは、今年で姉妹クラブ提携10周年を迎えました。これは、今から10数年前、旭市と茅野市とが姉妹都市の提携をした事が縁となったものです。

以来、リンドウの花咲く美しい自然に恵まれた茅野市と九十九里浜に面した旭市とはお互いに尊敬の念をもちながら接してまいりました。

この10年の節目を契機として、更に両ライオンズクラブの交流と親善を図り、友情の和を確かなものにする為合同例会を開催し、合わせて両市役所に三役が表敬訪問して茅野市へ「いちいの木」を旭市へ「山ももの木」を記念樹として、それぞれ寄贈致しました。

合同例会 昭和63年10月23日

甲府市湯村温泉 ホテル湯伝



千葉 LC

第23回千葉市少年三団体大会

とき 昭和63年11月3日(木・祝)

ところ 千葉ポートパーク
(遊遊ひろば・円形ひろば)
(雨天：新宿小学校体育館)

テーマ LOOK WIDE

1. 開催趣旨

本大会は年一度、千葉市少年団体の関係者及び団体が一堂に会し、相互関係を保ちつつ、友情と交歓をはかるとともに少年団体活動のより一層の発展をめざすものであります。

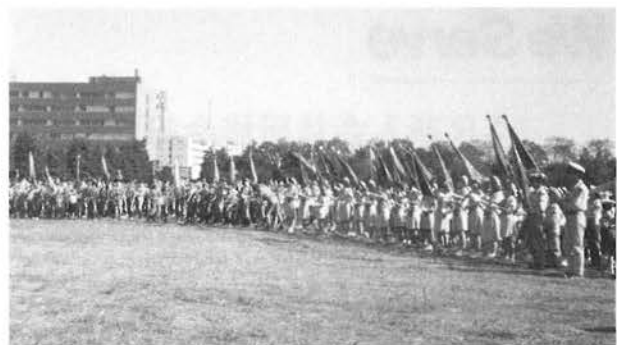
It' a Small World

世界はひとつ

世界中誰だってほ、えめば仲良しさ

平和祈り手を組みあるこうちいさな世界

※世界は一つ世界は同じ世界はまるいだけひとつ



佐倉 LC

ボーイスカウト海外交流の支援について

会長 L. 桜井 英一

青少年の健全育成の一環として佐倉LCも、ボーイスカウトの活動に支援を進めておりますが、今回ボーイスカウト印旛地区委員長、池内貞雄氏より台湾ボーイスカウトとの海外交流の申し入れがありました。当クラブは10数年前から、台湾第7LCと姉妹提携している関係から早速仲介を依頼、幾度かの話し合いの後台北第7LC、中国童子軍総会総副幹事、方純青氏、印旛地区委員長、



We Serve

池内貞雄氏、佐倉LCの4者による会談の結果、今年の夏休みに印旛地区ボーイスカウトから約20名を台湾に派遣することで話し合いが進められ、ここに台北ボーイスカウト 303 団との海外交流の交渉が成りました。



成田 LC

会長 L. 太田家廣

梅の木寄贈にともない、ライオンズの梅林造営を行いました。(約300坪) 数年後は老松とともに名物となり、情れんな香をただよわせる、うるおいの場となることと思います。又同所県道の両サイド100 mの間、葉ボタンの移植を行い、環境美化に務めました。



We Serve

CAB NEWS

4R 新入会員研修会報告

4R PR情報委員 L. 小林利弘

平成元年1月29日(日)、4R 新入会員研修会が佐原市中央公民館に於いて開催されました。当日は引率ライオン14名、新入会員36名が研修を受けました。

講師には、キャビネット幹事、木下 務L地区長期計画、リサーチ指導力開発委員長、中村清成L、4R内会長を代表して佐原クラブ会長、小笹原和雄Lの3名にお願いして、木下Lからは国際協会の組織から始めて、

地区内ライオンズの改革等について、中村Lからはライオンズマンとしていかに資質を高めていくか、小笠原会長からは入会してから現在までの自分の経験を通して、人の和の大切さを話して頂きました。



千葉県高等学校弁論大会

3R PR情報委員 L. 中村 可夫

平成元年1月21日、県労働福祉センターで開催されました。「平成を生きるために」成田園芸高 井上さんの基準弁論で始まり、引き継いで一般弁論の発表があった。弁論内容としては、生命の尊さ、農業問題では、農業に対して商工的に考えるべきバイオ活用農業発展へ、友人の死から人生の価値感、高齢化社会に対しての家族愛、海外を旅して自分自身を見直し甘えがあるのではないか、身近かな問題、将来自分達が進むべきか、各自個性豊かな表現で堂々と発表があった。

第八回高等学校 弁論大会ガバナー挨拶要旨

地区ガバナー L. 小泉 昭

21世紀を目指して明日を担う高校生諸君が一堂に会して夢を語り、抱負を述べ、自己の表現を通じて弁論を競う。何と素晴らしいことでしょう。

ライオンズクラブは「われわれは奉仕する」を基本理念として、世界にその拡がりを持つ文化的活動団体であります。そして数多い奉仕活動構想の中において、とりわけ次代を担う青少年健全育成のプログラムは、最も重要な目標として幅広く取りあげ活動を展開しているところであり、今日の催しもその一環として継続共催第6回目を迎えました。

弁論はいつの時代にも重要な役割を持つものであります。ヨーロッパの或る劇中の会話の中の役者のセリフに「世の中で必要なことは、実行ではなく舌一枚にあることがわかって来た」と云うくだりが有ります。この考え方は多分に日本的ではないようですが、年輩になると、その様な皮肉も分かるような気もいたします。過去、現在においても、弁舌、弁論、さわやかな話術というものは多くの人を動かし、政治を動かし、国の方向さえも決めさせるような大変な役割りを果してきていると思います。

これからは皆さんの時代であります。出場選手諸君には、純粋な主張発表を通して学生としての知識を函養し社会に対する正しい判断力を培い、学生生活の充実と文

化の高揚に資するためご健闘下さることを望んで止みません。

終りに大会主催者側、並びに後援団体の諸先生方のご努力に衷心から敬意を表し、一言粗辞をもってご挨拶いたします。

弁論大会開催について

青少年、レオ、ネス委員長 L. 鈴木 利一

青少年健全育成の一環として、333-C地区が主催する第八回千葉県高等学校弁論大会が開催された。県下高校から選抜された16名の弁士が参加、愛と希望社会への挑戦、悩み、そしてロマンのある熱弁をふるった。

弁論内容はゆたかで、現在社会に対する鋭い警告、卓越した意見、アイデアに富んだ企画力が聴衆、我々に感銘を与えた。弁論術はすばらしく、弁士の主張をきいていると現在の若者に21世紀をすみやかにバトンタッチできる事を感じた。この弁論大会は内容が充実しており、今後ライオンズクラブが積極的に後援する必要があると痛感した。





We Serve

新年合同例会

3R、1Z(成田LC、佐倉LC、四街道LC、酒々井LC)

3R.PR情報委員 L.中村可夫

平成元年2月4日(土)会場「蝶や」

3R、1Z、4クラブ会員が親睦と情報交換の場として一堂に参集、各クラブ会長より本年度の奉仕活動状況報告、及び後半の活動方針等述べられました。1Z、山浦ZCより各クラブに対してマンスリーレポートに対する注意があった。それは欠らく部分があり、活動報告が正確に記載されていない旨指適があった。

当日はキャビネットより「地区献眼、献腎、献血、推進、地区運営委員長」高橋弘Lが出席され、腎バンク準備委員会設立され、種々調査結果、佐倉の国立病院 橋爪先生、地元クラブ佐倉LCの御協力頂ければ設立出来るのではないか、是非力を借して頂き度い旨の挨拶がある。

地元佐倉LC 会長 桜井英一Lより腎移植センターとして国立佐倉病院は有名である。我々地元において全国的な腎移植の中核機構が地元で確立しているとは気がつかなかった。アイバンクと異なり、ドナー登録から移植希望者の管理まで全てシステム化され、コンピューター制御されている。国立佐倉病院の名誉院長 橋爪藤光先生は腎臓の権威者であり、千葉県腎バンク協会の設立

に向けて、情熱を傾けて今日まで努力されておられると聞き、地元佐倉LCとしても支援しなければならないと考える旨述べられる。

合同例会も懇親会に入り、親交を深め意義ある例会でありました。



成田LC会長 L.太田家廣



佐倉LC会長 L.桜井英一



四街道LC会長 L.井岡四郎



酒々井LC会長 L.高須賀辰之助

年次大会は 全員登録で！

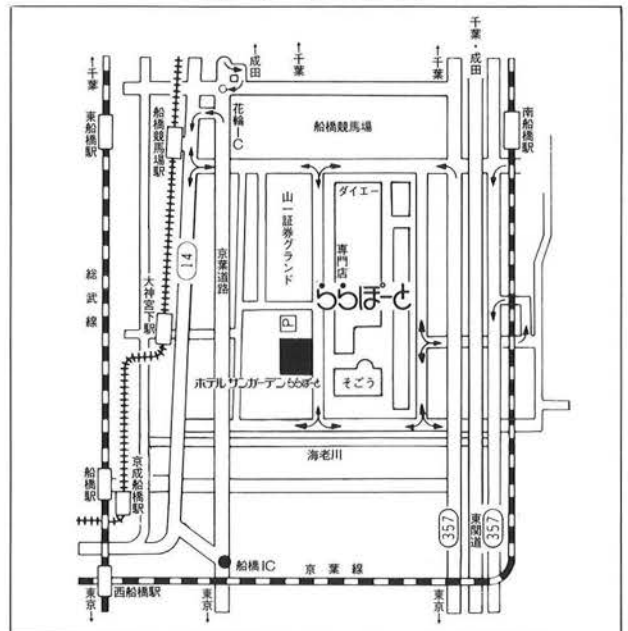
第35回年次大会
〈話し合い そして友情〉

日時 平成元年5月14日(日)
会場 ららぽーと大劇場

前夜祭 “国際都市船橋でタベの集い”

日時 平成元年5月13日(土)
会場 ホテルサンガーデン
(式典会場となり)

会場案内図





We Serve

第3回キャビネット会議開催される

1989. 2. 25 於、千葉県不動産会館

※紙面の都合上、詳細については各クラブ送付済みの議事録をご覧ください。

ガバナー提出議案

1. 333-C地区年次大会議事規則及び、第35回年次大会議事運営構成表、決議委員会分科会（フォーラム）担当役員承認の件。

〈決議〉

原案通り承認し、構成表、担当役員については了承する。

2. 次年度へのキャビネット運営の円滑な引き継ぎを図るため、キャビネット幹事L木下務を委員長とし、キャビネット会計L桜井一正、次期キャビネット幹事、会計予定者を委員とする本年度キャビネット運営協議委員会を設置いたしたい。

〈決議〉

原案通り決定。

リジョンチェアマン共同提出議案

第2R・RC

(各1R~7R・RC代表) L. 大塚喜作

〈議案〉1988年~89年度・地区記念事業について

去る11月28日開催、リジョンチェアマン会議に於いて議決同意を得たので、当地区千葉中央ライオンズクラブ会長・桑田 昭Lが代表する、精神薄弱者更生施設社会福祉法人清輝会「エルピザの里」開設にあたり、本年度記念事業を下記の通り実施贈呈致したい。

〈決議〉

クラブの自主的判断により、合同ACTとして協力、推進する。

委員長提出議案

地区国際協調・YE委員長

L. 山内 克己

第1号議案から第3号議案まで、YEプログラム実施にあたり緊急事態に対応する件。

〈決議〉

地区年次大会・分科会に於いてテーマとして取り上げ研究されたい。

地区LEO委員の任期延長について

地区青少年対策・LEO・LS委員長

L. 鈴木 利一

標記の件について、これが任期を2ヶ月延長し、年度始め（7月1日）より翌年度8月31日迄とする。

〈決議〉

趣旨了承

次期キャビネットに申し送る。





We Serve

敬 弔

勤んでご冥福をお祈り申し上げます。

松戸LC 故L 森谷敏雄(1988年12月6日) 旭 LC 故L 片山真之助(1988年12月5日)
旭 LC 故L 木内直義(1988年11月28日) 八千代LC 故L 田村成利(1989年1月24日)

故 田村成利ライオンを偲んで

八千代LC 会長 L. 秋葉琢磨



故 田村成利ライオン(63歳)

八千代LCチャーターメンバー
(大正15年12月15日生)

〴〵生あるもの、必ず死す、

平成元年1月24日午後4時38分 63歳。心不全にて、私達八千代Lions club はチャーターメンバーを失った。今年八千代LCは20周年をむかえている。

〴〵Lions をこよなく愛した、故田村ライオン、を実兄である市川東ライオン会長エレクトと私との会話より生前の故人を偲んでみよう。

私と故人との間柄は同じ医療にたずさはる同志として私がライオンズに入会する以前よりの友人である。即ち一例として八千代市夜間急病センター (pm.9~0 am) にて急病患者がとぎれると故人が私の部屋に来て、医療談義が始まる。lectureは止む所なく続く、特に漢方については熱心に研究されていた。

〴〵Lions、漢方薬、患者への接し方、は実兄Lion とよい意味でのライバルであったようだ。また私がLions会長エレクトになった昨今の頃、当院を訪れて〴〵Lions 運営、指導、をしてくれた。以後私は会長として、チャーターメンバーを自分の相談役と心に決め、行動して来た。波風は可成りあったが何とか今日まで運営し、20周年に船渡しが出来るめどがつ

いた矢先である

昭和63年12月故人より、私の所に電話が入る、それは息子さんを大変心配しての内容だった。その後12月14日(休)、八千代LC第一例会直前pm.6~6:30病院での2人の会話が最後となった。

〴〵どうですか? ウンもういいよ、帰りたい、家が心配でネ、息子のことが特に心配だヨ、Lは大丈夫だよ、でも体中精検したほうが良いですよ、ゆっくりして来てヨ、

気管枝喘息→心ぞう喘息→肺生心→肺心不全の経過をたどる。酒、タバコの量もこの病は進行させた。残念だった。

平成元年1月24日夜pm.9~10:40 八千代LC有士の集いが突然開かれた。故人に関する事、1月25日(休)第二例会、家族同伴新年会に於ける熱心な討論がされた。遺族よりの配慮があった。

1月25日(休) 〴〵故田村成利ライオンを偲ぶ会、として〴〵ライオン帽及び白い菊の花、そして故人の名前、L杉園、L中村精成より故人への追悼の言葉があった。静かな例会へと一変した。1月28日、御通夜、1月29日(日)葬儀は寒い2日間だった。故人の属した薬剤士会、薬業会、勉強会である協励会、そして八千代LC、遠く長崎より、広島より、全国つつうらうらより弔問客ははせ参じて下さった。

遺影のように今後は天国で笑顔で家族、親族、そして八千代LC20周年を静かに眺めているだろう。最後に故人の葬儀に全力を注いで下さった、八千代LCメンバー、特にチャーターメンバーである久原Lion、及び久原商店職員一同、そして薬剤士会、薬業会に対し遺族、親族に代り、葬儀委員長として深謝致します。故人の御冥福を祈りつつ。

遺族に幸せあれ!!

平成元年2月4日記

皆様の投稿をお待ちしております。
私たちまでご連絡ください。

地区PR情報委員長L. 小石 税(船橋ポート) 1R野口清治(柏グリーン) 2R滝口政雄(船橋) 3R中村可夫(千葉若潮) 4R小林利弘(佐原) 5R田中秀夫(木更津中央) 6R片岡和(房総勝浦) 7R東條安夫(上総一宮)
地区ニュース編集委員L. 川尻 誠一(船橋ポート) 鈴木 正興(船橋ポート) 富士原勇(船橋ポート)

1989年(平成元年)3月12日 印刷
1989年(平成元年)3月15日 発行
発行所 千葉市間屋町1の55 シーオービル6F
ライオンズ国際協会333-C地区
キャビネット事務局
印刷所 船橋市高瀬町32番地
(株)総合印刷 新報社
電話 0474-31-9166

銀座の老舗が軒を並べる そごう4階名店食堂街

●日本料理・うなぎ
「竹葉亭本店」

●すきやき・鉄板焼
「岡半」

●寿司
「銀座寿司幸本店」

●てんぷら
「銀座天一」

●中国料理
「四川飯店」

●とんかつ
「とん亭」

★各店では特別室もご用意いたしております。どうぞご利用くださいませ。



●イタリアン料理
「サンタルチア」

●オムレツ・喫茶
「メゾン・ド・フランス」

●手打そば
「竹やぶ」

●そば所
「銀座よし田」

●甘味駿河屋
「きよみず」

●ティーサロン
「エーデルワイス」

お食事を楽しみながら憩いのひとときを

メニューが豊富ファミリー大食堂-----4階
回転展望レストランホテルオークラ・レストラン・ラ・ロンド
-----タワー館9階

■食堂街・喫茶の営業時間

- | | |
|---|---|
| ●名店食堂街・
お手軽食堂街
“ららぐるめ”
AM11:00～PM 9:30 | ●店内喫茶
AM10:00～閉店まで |
| ●サイゼリヤそごう船橋店
AM 9:00～AM 2:00 | ●ファミリー大食堂
AM11:00～PM 7:00
土・日・祝は
AM11:00～PM 8:00 |

ご会合、ご商談、クラス会、記念パーティなど
各種パーティにご利用くださいませ。

■和室名店食堂街・4階バンケットルーム

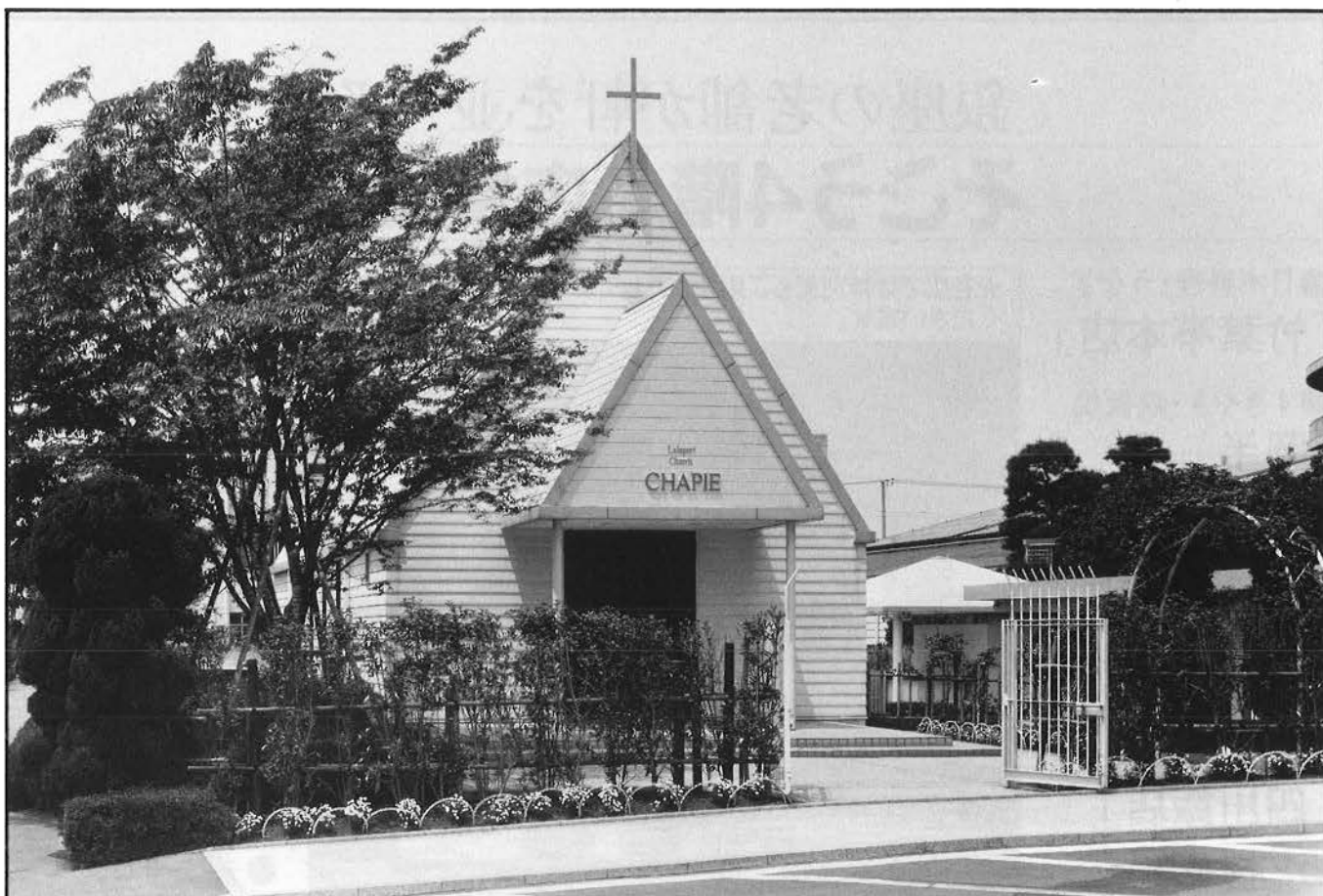


約20畳の和室。
床の間のある
落ちついた雰囲気
がご宴会を一層
魅きたてます。

■洋室タワー館8階洋室バンケットルーム



装飾、照明、
テーブルウェアと
優雅な雰囲気
のあふれる洋室です。
着席・立席どちらも
ご利用できます。



白いチャペルのウェディング ご婚礼ご予約承り中

豪華特典付き



- 客室 243室
- 大中小宴会場 7室
- 和洋中レストラン
- 神前式場
- 教会式場
- 純日本建築迎賓館
- 専用駐車場 150台



ホテルサンガーデンららぽーと
船橋市浜町2-1-1 ☎(0474)31-7531